

本号では、鉄道における様々な「再現」する技術を用いた研究について特集しました。鉄道車両の動きから、地震時の構造物の動き、レールの動き、パンタグラフすり板の性質、運転台からの視界、岩石の割れ目の進み具合、降雨時の盛土の動き、普段は見えない地盤の動きまで、事例は多岐にわたるものでした。ご紹介した以外にも、鉄道の課題を解決するために、現象をできる限り厳密かつ効率的に再現する工夫がなされた研究はたくさんあります。よりよい成果を得るために考え出された、ここにしかないオリジナルの再現装置や計算モデル、再現ノウハウには、関係者のアイデアやこだわりが詰まっていることから、もうひとつの研究成果でもあり、実は着目してもらえると嬉しい部分なのかもしれません。「神は細部に宿る」ではありませんが、特集をお読みいただいた方にも、研究成果の背後にある、研究に関わる人々のこだわりや妥協しない姿勢を感じ取っていただければ幸いです。(M.Y.)

ご注文は(一財)研友社へ
TEL: 042-572-7157
FAX: 042-572-7190
<https://www.kenf.jp/>

*タイトルは変更する場合があります。